



羽黒の子

甲府市立羽黒小学校
学校だより
令和5年9月28日
校長 石川 等

【学校教育目標】「確かな学力を身につけ、心豊かで、心身ともにたくましい子どもの育成」

本校の学力・学習状況調査の結果について

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月18日（火）に全国の小中学校において実施されました。本年度の全国学力・学習状況調査の調査内容は以下のような構成となっています。

・教科に関する問題

①「身につけておかなければ後の学年等の学習に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立てて実践し、評価・改善する力等

の2つを一体的に問う構成となっています。また、記述式の問題を一定割合で導入しています。

・生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

この調査の目的は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活指導などに生かしていくことにあります。

7月末に文部科学省から本校児童の調査結果が送付され、結果分析を行いました。このたび、分析が終了いたしましたので保護者の皆様にお知らせいたします。（本校のHPにおいても同じ内容について公表を行います。）

分析結果の概要

1 本校の教科に関する問題の状況（全国・山梨県との比較）

本校の状況は、次の通りです。

【国語】 全国平均・県平均のいずれも下回っている。

【算数】 全国平均・県平均のいずれも下回っている。

	国語 正答率	算数 正答率
全国平均	67.2	62.5
山梨県平均	66	61

2 本校の教科に関する問題における主な課題

今後、さらに学力を向上させていくために、課題となる点について抽出してみました。（正答率の低い問題について4つずつ抽出しています。）

なお、調査問題については、国立教育政策研究所 HP (<https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>) において閲覧できます。

【国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く。	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。
1三 (1)ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き表す。(いがい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。
2四	資料を読み、運動と食事の両方についてわかったことをもとに、自分にできそうなことをまとめて書く。	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。
3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する。	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる。

【算数】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨
2(3)	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く。	正三角形の意味や性質について、理解しているかどうかをみる。
2(4)	テープを直線で切ってできた2つの三角形の面積の大小について、分かることを選び、選んだわけを書く。	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することができるかどうかをみる。
3(2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方を記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する。	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる。
4(1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ。	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる。

3 各教科における主な課題を改善するための手だて

【国語】

- ☆観察や実験、調査の結果などについて説明する際には、図解したり、表形式やグラフ形式で示したりしながら、自分の考えを深めたり、相手によく理解できるものとなるよう工夫したりすることに取り組ませる。
- ☆漢字を文章の中で使用させながら、意味を正しく理解し、書いたり読んだりできるよう、日常的に意識して取り組ませる。また、同音異義語についても繰り返し指導する。
- ☆自分の考えをまとめる活動では、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけて要約することや、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことを意識して学習に取り組ませる。また、資料活用のために、積極的に図書館を利用し、複数の本や新聞などを活用して調べたり考えたりしたことを報告する活動を積極的に取り入れる。
- ☆敬語に関する知識を習得させるとともに、必要なことを質問したり、インタビューしたりする取組を通し、実体験の中で、正しい敬語の活用について学ぶ機会を設定する。



【算数】

- ☆図形を構成する要素やそれらの位置関係を基に、図形の構成の仕方について、操作の観察を通して考察できる場面を設定する。
- ☆答えを導き出した判断の根拠について、伝え合う活動に取り組む。
- ☆日常生活の場面を式に表したり、式と場面とを関連づけて読み取ったりすることを通して、問題の解決に式を用いることができるようにする。その中で、加法と乗法を混合した整数の計算をしたり、分配法則に取り組んだりする場面を設定する。
- ☆日常生活の場面と関連づけて、百分率で表された割合について理解する場面を設定する。例えば、興味・関心や問題意識に基づき、問題を設定し、目標に応じてデータの特徴を理解できるようにする中で、百分率についての理解を深めていく。



4 質問紙調査の結果から見られる特徴

本校児童の生活習慣や家庭学習などの状況から特徴として挙げられる点についてまとめます。

【基本的な生活習慣等について】

- 「朝食を毎朝食べていますか」という問いには、86.8%が肯定的な回答をしています。
- 「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」という問いには76.4%、「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」という問いには、85.3%が肯定的な回答をしています。

【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等について】

- 「自分には、よいところがあると思いますか」という問いには、73.5%が肯定的な回答をしています。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」という問いには86.7%が肯定的な回答をしています。
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」という問いには95.6%、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という問いには、98.5%が肯定的な回答をしています。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いには97.1%が肯定的な回答をしています。

【学校生活について】

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか。」という問いには、77.9%が肯定的な回答をしています。
- 「友達関係に満足していますか。」という問いには、92.6%が肯定的な回答をしています。

【学習習慣等について】

- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という問いでは、67.6%が肯定的な回答をしています。
- 平日の家庭学習の時間については、「2時間以上3時間より少ない」「1時間以上2時間より少ない」がともに33.8%で、「全くしない」は5.9%となっています。
- 平日の読書に使う時間については、「全くしない」が22.1%と最も多く、次いで「30分以上1時間より少ない」「10分以上30分より少ない」が20.6%となっています。
- 「新聞を読んでいますか」という問いでは、「ほとんど、または全く読まない」が67.6%となっています。

【地域や社会に関わる活動の実施状況等について】

- 「地域の行事に参加していますか」の問いには、54.4%が肯定的な回答をしています。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の問いには、76.5%が肯定的な回答をしています。

5 質問紙調査の結果から改善していきたい点

【基本的な生活習慣等について】

☆「早寝・早起き・朝ご飯」についてはとても良いと考えますが、さらに向上させるためには、「早寝」「早起き」について、「自分で」という意識をもたせたいところです。とりわけ、「自分で起きる」ということが自立に向け大切な観点になってきます。

【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等について】

☆多くの児童が「人の役に立つ人間になりたい」と感じています。こうした思いが活かされるよう、「自分のしたことが誰かのためになった」という体験を数多く重ねることで、自分に自信が持てるようにしていきたいと考えます。

☆「いじめはどんなことがあってもいけないこと」という意識の高さが見られます。学校での様々な活動を通し、人の気持ちが分かり、思いやりを持って周囲と接することができるよう、引き続き道徳教育の推進に努めます。

【学習習慣等について】

☆中学校生活に向け、自分でしっかり計画を立てて学習に取り組むことについて意識付けをしていきたいと考えます。

☆図書館を積極的に活用し、読書活動の充実を図ります。

【地域や社会に関わる活動の実施状況等について】

☆「接続可能な社会づくりの担い手」として成長していく子どもたちにとって「地球規模で考え、足元から行動せよ」(Think globally, act locally)という姿勢が求められています。地域社会の問題への関心や地域社会が抱える課題について考えることは、こうした姿勢をつくるための第一歩となります。学校・家庭の双方において子どもたちと話し合うようなことができればと考えます。

ご家庭の皆様へ

羽黒小学校では、子どもたちの学力向上を目指して、

- ・ 1人1台端末等のICT機器を活用したわかる授業、楽しい授業の実施
- ・ 動き出したくなる課題の提示、学びの過程がわかる板書とノート指導の充実
- ・ 自力解決の時間の確保やペアやグループ学習・全体検討などの場の設定
- ・ 読解力、記述力を育む言語活動の充実

等、授業改善に取り組んでいます。

今後も、全国学力・学習状況調査の分析結果を参考に、学力向上を目指し、教職員一丸となってわかる楽しい授業に努めてまいります。

また、GIGAスクール構想による1人1台端末(Chromebook)を効果的に活用しながら、子どもたちと共に、一歩ずつ実践や経験を積み重ね、平素の授業づくりにも生かしていきたいと考えております。

ご家庭におかれましても、引き続き、「家庭学習のてびき」を参考にいただき、子どもたちへの励ましの声かけや、学習の意義などについて話し合うことなどを通して、学習環境を整えるなど、ご理解とご協力をお願いいたします。